

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
 担当課長名：課長 高松 諭

事業名	地域高規格ICアクセス 一般国道312号 <small>おのみやみねやま</small> 大宮峰山ICアクセス	事業区分	一般国道	事業主体	京都府
起終点	自：京都府京丹後市峰山町新町 <small>きょうたんご みねやまちょうしんまち</small>	至：京都府京丹後市峰山町新町	延長	1.2km	
事業概要					
国道312号（大宮峰山ICアクセス道路）は、山陰近畿自動車道の（仮称）大宮峰山ICと一般国道312号、482号とを結び、将来の京丹後市の玄関口となる道路である。					
H29年度事業化	H30年度都市計画決定	R元年度用地着手	R3年度工事着手		
全体事業費	約34億円	事業進捗率	約63%	供用済延長	— km
計画交通量	5,100台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年 令和5年	
	(事業全体) 2.0 (残事業) 3.2	(残事業)/(事業全体) 21/32億円 事業費：19/30億円 維持管理費：1.7/1.7億円 更新費：0.0/0.0億円	(残事業)/(事業全体) 65/65億円 走行時間短縮便益：56/56億円 走行経費減少便益：7.5/7.5億円 交通事故減少便益：1.3/1.3億円		
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=1.8~2.2 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.8~3.5 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.9~2.1 (事業費±10%) 事業費：B/C=2.9~3.5 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.9~2.1 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.1~3.3 (事業期間±20%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路へのアクセス 京丹後市市街地から大宮峰山ICとのアクセス向上が図れる。 ・高速道路と一体整備による効果 山陰近畿自動車道は、平成27年度から国土交通省による直轄権限代行により大宮峰山道路として、約5kmが事業化されており、本事業を一体的に整備することによって、現道の交通安全性の向上、地域の防災機能の強化、地域の観光産業を支援することができる。 					
関係する地方公共団体等の意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている ・「京都府総合計画 丹後地域振興計画」（令和4年12月）の主要事業に位置付けられている 					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> ・大宮峰山道路は事業化されて以降、用地買収、埋蔵文化財調査が行われ令和元年12月には起工式を行い工事に着手するなど事業は順調に進ちよくしている。 ・国道312号と国道482号が会合する交差点は、交通渋滞が慢性化し、整備中の大宮峰山道路と並行する現道区間においても交通混雑や道路沿道施設への出入りにより、交通事故が発生する深刻な状況であり、山陰近畿自動車道を経由し、国道482号へ円滑に誘導することで、同交差点の渋滞対策を図る必要がある。 ・京都府立医科大学附属北部医療センターの受入体制強化に伴い、救急搬送数は増加傾向にあり、本事業により、京丹後市街地から大宮峰山道路にアクセスすることによる救急搬送時間のさらなる短縮が求められている。 ・観光入込客数は、コロナ禍の影響により一時落ち込んだものの、令和4年度は回復傾向にあり、今後も回復、増加が期待される。将来的に山陰近畿自動車道の整備により、日本海側の広域的な周遊観光ルートを形成していく必要性に変わりはない。 					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約90%、事業進捗率約63%					

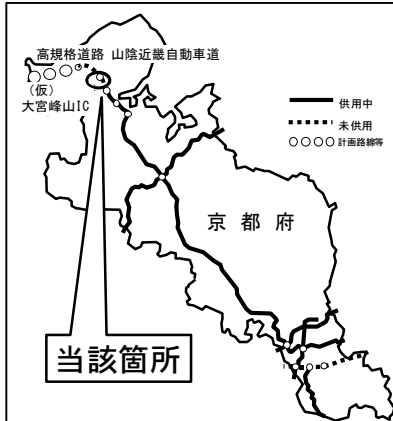
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
 残る用地の取得を進め、供用に向け、事業を推進していく。

施設の構造や工法の変更等
 建設発生土の有効活用の検討を進め、コスト縮減に努める。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由
 事業の必要性、重要性は変わっておらず、本事業により、大宮峰山道路の整備効果を地域に波及させることが重要であるため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。